

腎臓センター 外科部門（腎臓外科）

1. スタッフ（2010年4月1日現在）

科 長（教 授）	八木澤 隆
外来医長（講 師）	石川 暢夫
病棟医長（病院助教）	木村 貴明
医 員（講師（兼任））	佐久間康成（消化器外科）
	（学内講師（兼任）） 藤原 岳人（消化器外科）
	（助教（兼任）） 貫井 昭徳（泌尿器科）
医 員（講師（非））	伊藤 文夫（東京女子医科大学）
	（非 常 勤） 安土 正裕（聖路加国際病院）
	（非 常 勤） 大川 浩（利根川橋クリニック）
	（非 常 勤） 岩渕 敏久（聖路加国際病院）

2. 診療科の特徴

- 腎臓センターの外科部門を担当している。
- 腎臓センターでは内科部門、外科部門の連携により、腎炎から透析、腎移植に到るまでの一貫した総合的な腎臓病治療を行っている。このようなセンターはわが国において稀少である。
- 腎移植、腎不全外科（腎不全の診療に必要な外科治療や腎不全に伴う合併症の外科的治療、透析のためのバスキュラーアクセス造設や腎性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺摘出術など）、透析治療に伴う後天性腎嚢胞や透析腎癌に対する外科治療、腎血管性高血圧、腎動脈狭窄、動脈瘤等の血管病変に対する腎血管外科手術などを診療の主な対象としている。
- 腎移植は生体腎移植、献腎移植に取り組んでいる。生体腎移植ではABO血液型不適合移植の他、SLEや糖尿病などを原疾患とする腎不全例など特殊例にも適応を拡げている。また透析導入前の移植も積極的に進めている。新免疫抑制薬や体外循環による血液浄化療法を駆使した治療等を移植前後に応用している。
- 低侵襲手技（腹腔鏡下手術）の開発に積極的に取り組み、腎尿路手術にこの手技を導入している。腎移植における生体ドナー腎摘出術にもこれを応用している。わが国の腎移植領域でこの方法を行える数少ない施設の一つである。
- 腎臓センター発足後、紹介患者を中心に診療患者数は着実に増加している。手術件数をみると腎不全外科領域ではバスキュラーアクセス関連が年間100～150件を数え、その多くがトラブルの紹介例、人工血管移植例となっている。腎移植は年間20例程度を施行し、国内でも有数の施設として発展しつつある。また外来治療を継続している腎移植患者数は約120名を超えている。外来ではその他の腎臓手術、副甲状腺手術関連の紹介患者が多い。

7) 診療は日本泌尿器科学会専門医、指導医、日本透析医学会専門医、指導医、日本腎臓学会専門医、指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）、腎移植専門医（日本臨床腎移植学会）、日本内分分泌外科専門医によって行っている。

「専門医、指導医」

日本泌尿器科学会 専門医：八木澤 隆、石川 暢夫、伊藤 文夫、安土 正裕、貫井 昭徳、木村 貴明
 日本泌尿器科学会 指導医：八木澤 隆、石川 暢夫、伊藤 文夫、安土 正裕、貫井 昭徳
 日本外科学会 専門医：佐久間 康成、藤原 岳人
 日本腎臓学会 専門医：八木澤 隆
 日本腎臓学会 指導医：八木澤 隆
 日本透析医学会認定 専門医：八木澤 隆、石川 暢夫、伊藤 文夫
 日本透析医学会 指導医：八木澤 隆、石川 暢夫、伊藤 文夫
 日本内視鏡外科学会 技術認定医：八木澤 隆（泌尿器腹腔鏡）、伊藤 文夫（泌尿器腹腔鏡）
 腎移植認定医（日本臨床腎移植学会）：八木澤 隆、石川 暢夫、佐久間 康成
 日本内分分泌外科学会 専門医：八木澤 隆
 American Urological Association（米国泌尿器科学会）
 Member：八木澤 隆
 European Association of Urology（欧州泌尿器科学会）
 Member：八木澤 隆
 Societe Internationale d' Urologie（国際泌尿器科学会）
 Member：八木澤 隆
 The Endourological Society（国際エンドウロロジー学会）
 Member：八木澤 隆
 American Society of Transplantation（米国移植学会）
 Member：八木澤 隆
 European Society for Organ Transplantation（欧州臓器移植学会）
 Member：八木澤 隆
 The Transplantation Society（国際移植学会）
 Member：八木澤 隆
 European Renal Association-European Dialysis and Transplant Association（ERA-EDTA）（欧州透析、移植学会）
 Member：八木澤 隆

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数、再来患者数、紹介率

新来患者数	80人
再来患者数	1,964人
紹介率	89.1%

3-1) 手術症例病名別件数

慢性腎不全、腎移植	17
生体腎移植ドナー	15
腎腫瘍（透析腎癌）	7
腎嚢胞	1
腎性副甲状腺機能亢進症	6
原発性副甲状腺機能亢進症	3
慢性腎不全（透析導入、シャントトラブル等）	111
CAPDカテーテル関連	20
副腎腫瘍	1
腎機能障害（鏡視下腎生検）	7
尿瘻	4

3-2) 手術術式別件数、術後合併症件数

生体腎移植術	15
献腎（死体腎）移植術	2
鏡視下ドナー腎摘出術	15
鏡視下根治的腎摘除術	3
開放腎摘除術	5
腎部分切除術	1
副甲状腺全摘除術および部分自家移植術	6
副甲状腺腫摘除術	3
鏡視下脾臓摘除術	5
鏡視下副腎摘除術	1
鏡視下腎嚢胞切除術	1
鏡視下腎生検	7
膀胱尿管新吻合術	2
移植腎自己尿管吻合術	2
血腫除去術	1
内シャント造設術（人工血管移植術を含む）	111
CAPDカテーテル留置、抜去	20

8) 死亡症例

入院死亡例なし

9) カンファランス

* 火曜日、木曜日：症例カンファランス

* 火曜日、水曜日：移植関連（免疫抑制療法、移植腎病理等）のカンファランス、抄読会

4. 事業計画・来年の目標等

- 1) 腎臓センターの治療内容を透析施設、透析患者に対して広く情報提供し、県内外からの患者の増加を図

る。

- 2) パスキュラーアクセス、ペリトネアルアクセス関連手術を行える専門外科医の育成に努める。増加する腎移植希望者に対応するため、スタッフ、専門医、コーディネーターの増員と育成に取り組む。
- 3) 地域における腎不全治療レベルの向上のため、献腎移植の推進に取り組む。栃木県臓器移植推進協会、栃木県移植コーディネーターと協力し、献腎増加のための一層の活動と啓発を進める。
- 4) 腎移植外来の円滑な運営を図る。
- 5) 腎移植長期生着のための研究を進める。
- 6) 腎臓、上部尿路手術における低侵襲手技（鏡視下手術）のさらなる改良と開発。